「停滞するってダメですか」

【人物一覧表】

熊切　里奈（１９）	大学生	
水谷　幸弘（３５）	喫茶店店主	
熊切　喜久子（７９）	里奈の祖母	
熊切　明日美（４９）	里奈の母	

【あらすじ】

起立性調節障害の熊切里奈は朝起きるのが苦手だ。毎日、『今日やることリスト』を作っているも、すぐに体調を崩し、達成できないことが多い。特に、祖母の熊切喜久子にご飯を作ってもらう、母の熊切明日美のお見舞いに行けないことが里奈の中で重荷となっている。喜久子と明日美もそんな里奈を心配しているが、自分たちがプレッシャーをかけてしまうと、もっと里奈を追い詰めてしまうため、力にはなれない状況となっている。

ある日。里奈が買い物に行こうとした途中で、目眩を起こし、歩けなくなってしまう。通りかかった喫茶店店主の水谷幸弘が、里奈を助けようとするも、里奈はそれを拒否する。その日、水谷は里奈に何もすることができなかったことが心残りとなっていた。

翌日。今度は水谷の喫茶店の前で、里奈が歩けなくなってしまう。水谷は再び駆け寄り、『今日はダメだ』と無理やり里奈を喫茶店に

連れて行く。ソファに座っても無理やり立ち上がろうとする里奈。水谷は心を落ち着かせようとホットミルクを提供する。しかし、里奈はミルクを床に溢してしまい、激しく動揺してしまう。続けて、『普通のことも普通にできない私が、頑張っても意味あるのか』と弱音を吐き出す。それを聞いた水谷は、『君が頑張ることを誰かが求めたのか？』と敢えて追い詰めるようなことを言う。再び動揺する里奈を見て、『誰かに見てもらいたくなったら、またここに来ればいい』と居場所を提供することを伝える。それを聞いた里奈は安堵のため息をつく。

数日後。里奈は変わらず、朝起きれない毎日を過ごしていた。しかし、喜久子に料理を頼れるようになる、明日美の部屋の掃除をしようとするなど、少しでも前に進んでいこうという姿勢が見えてきた。挫けそうな時は、水谷の言葉を思い出して、お見舞いのために明日美の病院にも足を向けた。

【本文】

○熊切家・里奈の部屋・中（朝）

ベッドの横でスマホのアラームが鳴る。

パジャマ姿の熊切里奈（１９）が寝返りを打つ。

右腕を伸ばしてアラームを止める。

スマホの画面は『０８：００』。

里奈「起きなきゃ」

×　×　×

壁掛け時計が『１１：２３』を指している。

里奈、ベッドに横向きに寝ている。

呆然と正面を見ている。

身体をねじりながら、起き上がる。

勉強机の上に、『今日やることリスト』の張り紙。

リストには『・家の掃除・買い物・ごはん作る・買い物・お母さんのお見舞い』と書かれている。

○同・キッチン

里奈、冷蔵庫の扉を開ける。

冷蔵庫には、ストローが刺したままの野菜ジュース。

里奈、野菜ジュースを一口飲む。

野菜ジュースを冷蔵庫の中にしまう。

○道路

人気が少ない道路。

里奈、エコバッグを持って、ゆっくり歩いている。

徐々に道路の端の方に寄っていく。

水谷幸弘（３５）、向かいの歩道を歩いている。

ふらつく里奈を心配そうに眺める。

里奈、電柱に寄りかかりながら、アスファルトの上に倒れる。

水谷、慌てて里奈の元に駆け寄る。

水谷「大丈夫ですか？」

里奈「いつものことなので気にしないでくだ

さい」

水谷「でも」

里奈「（水谷と目を合わせず）少し休めば治るんで」

水谷、里奈から離れる。

心配そうに里奈を見ながら、歩き出す。

俯いたままの里奈。

○熊切家・里奈の部屋・中（夕）

カーテンの隙間から夕陽が差し込む。

里奈、ベッドに横向きに寝ている。

スマホでメッセージアプリを開く。

『おばあちゃんごめん。今日も無理だった』と打ち込む。

ゴミ箱には、『今日やることリスト』の張り紙。

○同・キッチン（夜）

熊切喜久子（７９）、キッチンの電気をつける。

バッグから四つのタッパーを取り出す。
冷蔵庫を開けて、タッパーをしまう。
洗面所の横に開けた後の薬シートが置かれている。
喜久子、薬シートを手に取る。

○同・里奈の部屋・中（・朝）
ベッドの横でスマホの電話が鳴る。
パジャマ姿の里奈、寝ている。
里奈、寝ぼけて電話を切る。
再び電話が鳴る。
里奈、不機嫌そうに電話に出る。
里奈「……はい」
喜久子の声「里奈ちゃん。まだ起きれない？」
里奈「（寝返りを打ちながら）……頑張る」
喜久子の声「焚き込みご飯。入れといたから。
あと、里奈ちゃんの好きな切り干し大根も」
里奈「ありがとう。おばあちゃん」
喜久子の声「元気出たら食べてね」
里奈「……いつもごめんね」

里奈、電話を切る。
起き上がれず、枕に顔を埋める。

○三原病院・外観
タクシーが病院正面のロータリーに停まる。
喜久子、ドアを開けて外に出る。

○同・病室・中
熊切明日美（４９）、ベッドの上で本を読んでいる。
ドアの外からノックの音。
喜久子、ドアを開けて中に入る。

明日美「お母さんか」
喜久子「里奈ちゃんじゃなくて悪かったね」
明日美「里奈はどうしてる？」
喜久子、ベッド横の椅子に座る。
喜久子「んーん。相変わらず」
明日美「お母さん。里奈を焦らせるようなことと言ってない？」

喜久子「私は別に。あなたの方が言ってたじゃない。『なんでずっと家にいるの！』とか」

明日美「……だから。ちゃんと謝りたい」

喜久子「頑張ってるわよあの子。ちょっと心配なくらいにね」

喜久子、窓の外を見る。

喜久子「明日美だって不動産頑張りすぎて入院しちゃったんじゃない。今は神様がくれた休暇だと思って、身体を休めなさい」

明日美「……」

○熊切家・キッチン

里奈、冷蔵庫の扉を開ける。

冷蔵庫の四つのタッパーを見つける。

切り干し大根が入ったタッパーを取り出す。

タッパーを開けて、匂いを嗅ぐ。

里奈「ごめん。おばあちゃん」

里奈、冷蔵庫を開けて、タッパーをしまう。

○同・ダイニング

テーブルの上に置き手紙が置かれている。

里奈、手紙を手に取る。

手紙には『ママにも連絡してあげて』と書かれている。

里奈「……」

里奈、スマホを取り出し、メッセージ画面を開く。

文字を打ち込もうとするも、指が止まる。

○喫茶ロビンソン・中

水谷、カウンターでコーヒーカップを整理している。

ガラス窓から外を覗く。

○同・外

通りに面した大きなガラス窓の喫茶店。

里奈、エコバッグを持って歩いている。
エコバッグの中身は野菜。
里奈、立ちくらみがして、地面にへたり込む。

○同・中
水谷、ドアを開けて、外に出る。

○同・外
里奈、頭を抱えている。
水谷、しゃがむように里奈に駆け寄る。
水谷「やっぱり大丈夫じゃないでしょう」
里奈「いや大丈夫です。ちょっとしたらまた頑張れるんで」
水谷「……今日はダメだ。こっち来なさい」
水谷、里奈の腕を引っ張るようにして、起こす。
里奈「ちょ……なんですか」
里奈、水谷に引っ張られて、ふらつきながら歩いていく。

○同・中

誰もいない店内。

里奈、ソファ席に座っている。

半目で呆然としている。

水谷「コーヒー飲める？」

里奈「眠れなくなるんで大丈夫です」

水谷「紅茶は？」

里奈「私のことは構わないでください」

里奈、ふらつきながら立ちあがろうとする。

水谷、慌ててソファ席まで駆け寄る。

水谷「待て待て待て。いいから座ってな」

水谷、里奈の肩を押すように座らせる。

水谷「ホットミルク。これなら飲めるでしょう」

里奈、無言で頷く。

×　×　×

水谷、ソファ席にホットミルクを運ぶ。

水谷「どうぞ」

里奈、ホットミルクを見つめる。
ゆっくりと手に取り、一口飲む。
水谷「熱くない？」
里奈、小さく首を横に振る。
里奈「甘い……」
水谷「そりゃあミルクは甘いよ」
里奈「優しい味」
里奈、ミルクをテーブルの上に置こうとして、手を滑らせる。
ミルクが床に溢れる。
里奈、慌てて立ち上がる。
里奈「ご、ごめんなさい。すぐ拭きます」
水谷「いいから座っててて」
里奈、拭くものが見つからず、あたふたしている。
水谷、カウンターから布巾を取ってくる。
溢れたミルクを拭く。
里奈「や、やります」
水谷「いいから！」

里奈「……」
水谷「あ……ごめん」
里奈「……こんな私なんている意味あるんですかね。普通のことも普通にできない」
水谷、ミルクを拭く手を止める。
里奈「こんな私だから頑張らないとダメなのに。頑張って意味なんかあるのかな」
里奈、目に涙を浮かべる。
水谷「ずっと頑張ってる人なんていないよ。みんな誰かに甘えてるし、甘えたい」
里奈「でも……今まで甘えすぎてて……それでお母さんも身体壊しちゃって」
里奈の手の甲に涙が落ちる。
里奈「友達だった子たちにもきっと、いつもサボってるって思われてるし。社会人になったらどうなるかずっと怖い」
水谷「君が頑張ることを誰かが求めてるのかな？」
里奈「え？」
水谷「頑張らなきゃって追い詰めてるのは君

自身なんじゃないかな」
里奈、スカートの裾を強く握る。
里奈「でも！　頑張らなきゃ誰も私を見てくれないし」
水谷、立ち上がって、
水谷「少なくとも。今僕は君を見てるよ」
里奈と水谷、見つめ合う。
水谷「誰かに見てもらいたくなったら。またここに来ればいい」
里奈「……いいんですか？」
水谷、優しい表情で頷く。
涙目の里奈、安堵のため息をつく。

○熊切家・里奈の部屋・中（数日後・朝）
ベッドの横でスマホの電話が鳴る。
パジャマ姿の里奈、寝ている。
里奈、寝ぼけて電話を切る。
×　×　×
時間経過して、目を開けている里奈。
スマホを開き、喜久子に電話をかける。

里奈「もしもし。おばあちゃん」
喜久子の声「起きれた？　今日は大学行けるの？」
里奈「ううん。やめとく」
喜久子の声「そっか」
里奈「……あのね、おばあちゃん。切り干し大根。今度はちゃんと食べたいから、また作って」
喜久子の声「……わかった！　いっぱい食べてね」
電話が切れる。

○同・明日美の部屋・中
資料が平積みに置かれている。
複数の資料に『不動産』の文字。
里奈、複数の資料を持ち上げようとするも、バランスを崩し、床に落とす。
慌てて拾おうとするも、手を止める。
×　×　×
フラッシュインサート。

水谷、里奈の正面に立っている。

水谷「誰かに見てもらいたくなったら。またここに来ればいい」

×　×　×

里奈、深呼吸をして、資料を拾い出す。

○喫茶ロビンソン・中

数人の客が談笑している。

水谷、カウンターでコーヒーミルをかき混ぜている。

里奈、ドアを開ける。

水谷「いらっしゃい」

里奈、恐る恐る店の中に入る。

客たちが里奈の方を見る。

里奈「あ、あの水谷さん。今から行ってきます」

水谷「ああ。行ってらっしゃい」

里奈「また……帰ってきていいですか？」

水谷「もちろん」

里奈「ちゃんと見ててほしいです」

里奈、ドアを開けて、外に出る。
客たちが小さく笑い出す。
水谷、咳払いをする。小さく笑みを浮かべる。

○三原病院・病室・外

緊張した表情の里奈、ドアの前に立っている。
ドアの横には『熊切明日美』と書かれた表札。
里奈、胸に手を当てて、深呼吸する。
スマホの通知音。
喜久子からのメッセージ。
『今は停滞してもいい。誰かが扉を開けてくれるよ』
里奈、深呼吸をして、ドアをノックする。
里奈「お母さん。久しぶり」
里奈、ドアを開ける。

（終）